横浜スタジアムへのデジタルサイネージの設置に対する景観上の市の考え方

旧市庁舎街区や関内駅前地区の開発等のまちの変化に合わせた関内・関外地区の更なるにぎわい創出に向けて、横浜公園内にスポーツ等の興行が可能な施設として立地する横浜スタジアムにおいて、デジタルサイネージを設置したいと（株）横浜スタジアムから提案がありました。

提案内容のうち縦型サイネージについては、横浜市景観計画の高さの基準*に適合しないため、「魅力ある都市景観の創造に特に寄与するもの」として判断する上での市の考えを示します。

なお、横型サイネージについては高さの基準に適合する計画となっています。※裏面参考を参照

1 横浜市景観計画における映像装置の設置高さに関する制限の主旨について

映像装置は、発光したり、切り替わったり、動いたりすることが可能であるため、通常の看板等と比べ景観への影響が大きいと考えられます。映像装置が無秩序に設置されると、広告物があふれ、歴史や文化を生かしたまちづくりを進めてきた、関内地区の景観を損なう恐れがあります。

そのため、景観計画では関内地区にふさわしい秩序ある広告景観を形成するために、特に景観上必要なエリアでは設置自体を制限しているほか、その他のエリアにおいても映像装置の設置高さ等に関する制限を設けています。

2 横浜スタジアムにデジタルサイネージを設置する意義について

(1) 関内駅周辺地区の新たなまちづくり（関内駅周辺地区エリアコンセプトプラン）

令和2年の市庁舎移転を契機とした新たなまちづくりの方針として「関内駅周辺地区エリアコンセプトプラン」を策定し、関内駅前の大規模開発、関外側の関東学院大学や横浜武道館、横浜 BUNTAI の整備、関内と関外をつなぐみなど大通り及び横浜文化体育館周辺道路の再整備など、「国際的な産学連携」「観光・集客」をテーマとしたまちづくりを推進しています。

また、求められる機能の一つとして「スポーツ・健康」を掲げ、集客促進や地域経済活性化を目指すとともに、誰もが身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを推進しています。

(2) 横浜スタジアム・横浜公園の魅力ある景観形成

現在、横浜スタジアム左翼棟にはベ이스ターズの選手のビジュアルが掲出されており、プロ野球チームの本拠地としての顔づくりがなされていますが、横浜スタジアムは公園施設として、アマチュアスポーツ等の市民利用、音楽ライブ等のイベントなど、プロ野球以外にも様々な活用がされています。また、横浜公園の園地においても、子どもたちがスポーツや遊びを体験できるイベント、ヨルノヨと連携した夜間のにぎわい創出など、積極的な活用を進めています。

そうした中で、デジタルサイネージを活用することで、来場者を迎え入れる演出機能を強化するとともに、横浜スタジアム・横浜公園のにぎわいを街へとにじみ出す演出や、周辺施設・地域と連携した回遊促進・にぎわい創出につながる演出などを行い、プロ野球チームの本拠地としての顔だけでなく、関内駅周辺地区の新たなまちづくりを象徴する魅力ある景観形成を目指します。また、イベント等が行われていない日常時においても、横浜公園・横浜スタジアムらしい品格ある景観形成を進めます。

3 事業者提案に対する市の考え方（景観上の配慮事項等）について

(1) デジタルサイネージの設置位置について

関内駅前、関内・関外地区の縦軸・横軸の結節点であるという立地特性や、横浜スタジアムという施設の性質を踏まえるとともに、周辺環境との調和を考慮した横浜公園の利用の考え方（第35回政策検討部会資料1-1）に基づき、関内駅側に限定して設置を認めることとします。

なお、プロ野球シーズン時に毎年掲出している広告物等について、掲出場所にメリハリを持たせるなど、魅力ある都市景観の創造に向け、引き続き事業者と協議していきます。

(2) デジタルサイネージの形態意匠について

縦型サイネージは、横浜スタジアムや横浜公園を象徴するとともに、周辺施設等と連携した演出によりまち全体を盛り上げるための活用を想定しています。そのため、公園外からも視認される高さ・大きさでの設置は妥当であると考えています。また、既存の建物と一体的なデザインとするべきであると考えています。

横型サイネージは、公園内の来街者を対象に、縦型サイネージを補完するような演出や情報提供を行うなど、多様な活用を想定しています。そのため、公園内からは視認しやすい（公園外への景観影響の少ない）位置かつ景観計画に定める高さ（建物の2階以下）に設置することとし、形状については、汎用性に考慮した規格サイズ（縦横比16：9）の横長形状とします。

(3) 表示内容について

来街者を迎え入れる玄関口としてふさわしい、魅力ある景観を形成するための審査基準や審査体制等の運用ルールを設け、市も参画することで景観の質を担保することが可能であると考えます。なお、これらの基準・体制は運用後の課題等を踏まえ随時見直すものと考えています。

また、高さの基準に適合しない縦型サイネージについては、企業広告は流さず、静止画をベースとした落ち着いたものとし、景観上過大な影響を及ぼさないものとしたいと考えます。

以上のとおり、関内駅周辺地区の新たな魅力づくりに寄与すること及び景観上の配慮事項を踏まえ、「魅力ある都市景観の創造に特に寄与するもの」と判断したいと考えています。

【参考】横浜市景観計画におけるデジタルサイネージに関する制限（関内地区）

第5 屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項

関内地区にふさわしい秩序ある広告景観を形成するため、特に定める屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限は、次のとおりとする。ただし、市長が横浜市都市美対策審議会に意見を聴いた上で、魅力ある都市景観の創造に特に寄与するものと認めた場合は、この限りでない。

1 関内地区全域の制限

<映像装置>

映像装置を使用する屋外広告物は、2の地区別の制限において、別に定めがある場合を除き、建築物に設置するものにあつては当該建築物の2階以下に、その他のものにあつては当該屋外広告物の上端の高さを地上5m以下に設置するものとする。ただし、催物等のために一時的に設置するもので、景観上支障がないと市長が認めたものについては、この限りでない。

2 地区別の制限 ⇒ 横浜公園に近接する山下町特定地区、日本大通り特定地区では原則設置不可。

横浜公園については定めがない。（横浜市公園条例で広告物を掲げ、又は散布することを禁止）